

令和5年分 成田空港貿易概況(速報)

(特徴的な品目の動向)

牛肉(生鮮・冷蔵 骨付きでないもの)の輸出



・本特集の「牛肉(生鮮・冷蔵 骨付きでないもの)」は、輸出統計品目番号「0201.30」に属する品目です。

(1988～2016年)

02.01 牛の肉(生鮮のもの及び冷蔵したものに限る。)

0201.30000—骨付きでない肉

(2017年以降)

02.01 牛の肉(生鮮のもの及び冷蔵したものに限る。)

0201.30 —骨付きでない肉

100—ロインのもの

200—かた、うで及びもものもの

300—ばらのもの

900—その他のもの

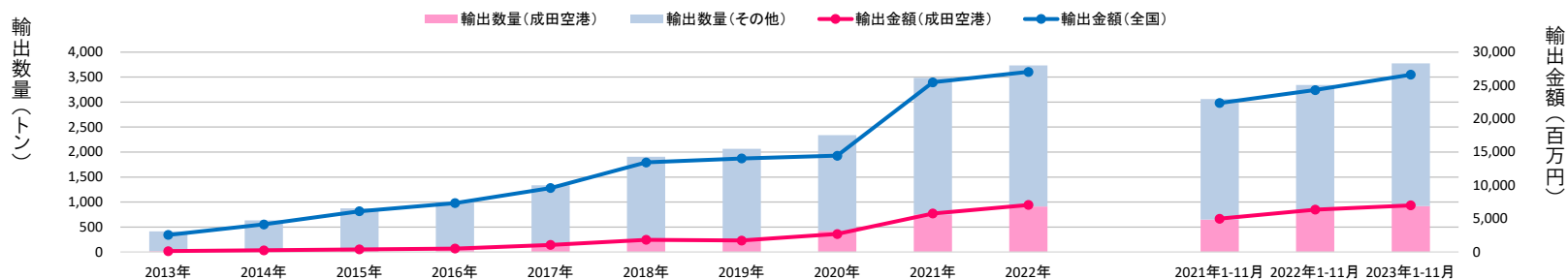
・2022年分は確定値、2023年1-11月分は確報値です。

1. 年別推移

成田空港における牛肉(生鮮・冷蔵 骨付きでないもの)の輸出は、直近10年間で数量・金額ともに増加傾向にあります。2023(令和5)年1～11月の輸出数量は921トン、輸出金額は70億1,100万円で、全国輸出数量の24.4%、全国輸出金額の26.3%を占めます。成田空港だけではなく、全国的にも輸出が増加傾向にあります。

一般社団法人日本畜産物輸出促進協会は、2014(平成26)年12月に同協会の前身である日本畜産物輸出促進協議会が発足して食肉事業者とともに日本産和牛の輸出促進活動が始まり、外国産牛肉にはないキメの細かい脂肪交雑(サシ:霜降り)や舌でとろける食感、日本産和牛の持つ「和牛香」という甘い香り等を海外に向けて精力的にPRしたことで、それまで認知度の低かった日本産和牛の美味しさが海外の富裕層に徐々に認められ、輸出増加に繋がっていると見ています。

(図1) 牛肉(生鮮・冷蔵 骨付きでないもの)の年別輸出推移(2013年-2023年11月)



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年		2021年 1-11月	2022年 1-11月	2023年 1-11月
輸出数量(トン) 全国	415	633	873	1,005	1,335	1,907	2,065	2,337	3,485	3,734		3,059	3,341	3,772
輸出数量(トン) 成田空港	17	33	51	59	139	259	232	426	752	912		649	818	921
数量シェア 成田空港	4.0%	5.3%	5.8%	5.8%	10.4%	13.6%	11.2%	18.2%	21.6%	24.4%		21.2%	24.5%	24.4%
輸出金額(百万円) 全国	2,582	4,144	6,126	7,351	9,605	13,451	14,043	14,453	25,462	27,025		22,370	24,306	26,621
輸出金額(百万円) 成田空港	152	274	400	527	1,079	1,840	1,733	2,706	5,785	7,072		5,005	6,372	7,011
金額シェア 成田空港	5.9%	6.6%	6.5%	7.2%	11.2%	13.7%	12.3%	18.7%	22.7%	26.2%		22.4%	26.2%	26.3%

2. 港別動向

2023(令和5)年1～11月に成田空港からの牛肉(生鮮・冷蔵 骨付きでないもの)の輸出は、数量・金額ともに全国の約4分の1を占めます。成田空港に次いで輸出が多い港は、福岡空港、博多港、関西空港で、成田空港を含めた4港で全国分の輸出数量・金額の約4分の3を占めます。

一般社団法人日本畜産物輸出促進協会によると、生鮮・冷蔵牛肉は賞味期限が短いことから航空便で輸送されるケースが多い一方で、冷凍牛肉は生鮮・冷蔵牛肉よりも保存が効くことから、コスト面を考慮して船便で輸送されるケースが多いとのことです。

また、成田空港は北米・西欧方面の国際線が多く運航していることや、2022(令和4)年1月に開場した新生成田市場内において、輸出に必要な検疫・通関等の手続や貨物の梱包等をまとめて行うことが可能になったことから、輸出の拠点として選択されているとのことです。

(図2)港別構成比 (2023年1-11月)



港	数量(トン)	前年同期比	構成比
成田空港	921	112.6%	24.4%
福岡空港	699	112.7%	18.5%
博多港	555	131.8%	14.7%
関西空港	456	125.8%	12.1%
その他	1,142	102.0%	30.3%
合計	3,772	112.9%	100.0%

港	金額(百万円)	前年同期比	構成比
成田空港	7,011	110.0%	26.3%
福岡空港	5,567	112.5%	20.9%
博多港	3,497	131.6%	13.1%
関西空港	3,290	113.0%	12.4%
その他	7,255	97.8%	27.3%
合計	26,621	109.5%	100.0%

※輸出統計品目番号「0201.30」の2023年12月分輸出金額及び数量は、2024年1月30日に公表予定です。

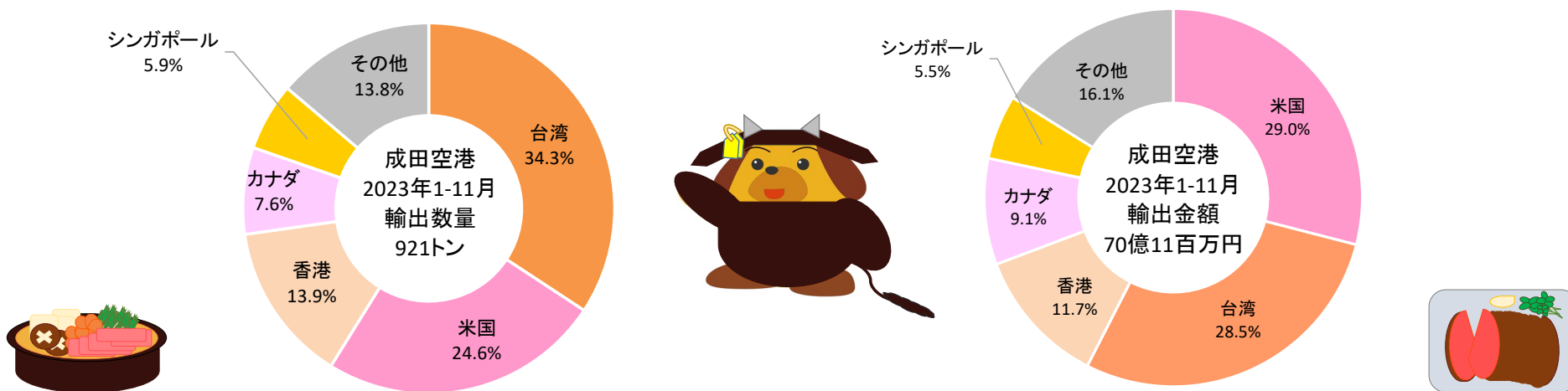
3. 仕向国(地域)別動向

2023(令和5)年1～11月に成田空港から輸出された牛肉(生鮮・冷蔵 骨付きでないもの)のうち、数量・金額ともにその7割以上が米国・台湾・香港の3か国へ輸出されています。

一般社団法人日本畜産物輸出促進協会によると、台湾・香港では富裕層に日本産和牛が認知され、日本に似ている食文化(鍋料理、例:火鍋など)により薄切り肉の需要があることから人気が高くなっているそうです。米国では、富裕層に需要があることに加えアジア系の人口比率も高いことから、日本産和牛の認知度が高いと想定されるということです。また、アジアでは牛肉の各部位が全体的に消費されるのに対し、米国では消費量の約8割以上が「リブロース」、「サーロイン」、「ヒレ」等のロイン系と呼ばれる部位であることから、アジア向けの牛肉に比べて輸出単価が高くなっているそうです。

一方で、日本から近い中国や韓国は、検疫上の問題で日本産牛肉の輸入を停止しているということです。

(図3)成田空港 仕向国(地域)別 構成比(2023年1-11月)



国(地域)	数量(トン)	前年同期比
台湾	315	148.3%
米国	226	100.9%
香港	128	89.5%
カナダ	70	111.7%
シンガポール	54	76.8%
その他	127	121.6%
合計	921	112.6%

国(地域)	金額(百万円)	前年同期比
米国	2,034	96.5%
台湾	1,998	144.9%
香港	824	96.5%
カナダ	637	108.5%
シンガポール	388	77.8%
その他	1,130	119.3%
合計	7,011	110.0%

※輸出統計品目番号「0201.30」の2023年12月分輸出金額及び数量は、2024年1月30日に公表予定です。

4. トピックス、今後の輸出の見通し

「和牛」と「国産牛」の定義のちがい

「和牛」は、日本で生まれ育ち、品種改良を重ねて作られた牛を指します。「和牛」として認められるのは、「黒毛和種」、「褐毛和種」、「日本短角種」、「無角和種」の4品種とこれらの品種間での交雑により生まれた牛で、市場に出回る和牛の約97%が「黒毛和種」であり、日本全国で飼育されています。

一方で「国産牛」は、品種や生まれた土地に関係なく、生まれてから出荷されるまでの間、最も長く日本で飼育された牛のことを指します。「国産牛」には、ホルスタイン種やジャージー種等の「乳用種」や、肉専用種と乳用種の「交雑種」等が含まれます。

出典：農林水産省「誰かに話したくなるお肉の豆知識」
JETRO「農林水産物・食品の輸出ポータル
日本産食材ピックアップ 和牛」

牛トレーサビリティ制度

牛肉の安全性に対する信頼確保や、BSE(牛海面状脳症)のまん延防止措置の的確な実施等を目的として構築されました。日本国内で育てられたすべての牛に10桁の個体識別番号が付され、その番号によって牛の生年月日、品種、肥育期間、と畜日等の生産履歴をデータベース化しています。

牛がと畜されて牛肉となってからも個体識別番号が伝達され、小売店や飲食店等で表示されます。これにより、国産牛肉の生産流通履歴を把握することが可能になっています。

なお、購入した牛肉に表示されている個体識別番号により、一般消費者でもインターネット(※)を通じて牛の生産履歴を検索することができます。

※独立行政法人家畜改良センター「牛の個体識別情報検索サービス」
出典：農林水産省作成パンフレット「牛トレーサビリティ法」
農林水産省「牛トレーサビリティ制度の概要」

新生成田市場

成田市公設地方卸売市場(新生成田市場)は、2022(令和4)年1月20日に開場されました。衛生管理が徹底された閉鎖型施設で気温の変化などによる影響を受けなくなるため、商品を鮮度の高い状態で保つことが可能です。

市場内の「高機能物流棟」には「ワンストップ輸出エリア」が整備されており、海外へ輸出するために必要な各種証明書の交付の他、検疫・通関・爆発物検査等の輸出に必要な手続きを市場内で一貫して行っています。これにより、輸出手続に要していた時間が以前より短縮され、貨物をより新鮮な状態で輸出することが可能になっています。

出典：成田市ホームページ
「【卸売市場】新生成田市場の開場について」
成田市役所 経済部 卸売市場作成パンフレット
「日本の新鮮な農水産物を成田から世界の食卓へ
“新生成田市場”」



今後の輸出の見通し

一般社団法人日本畜産物輸出促進協会は、現在は日本国内での需要が人口減少や高齢化等により頭打ちとなっており、国内の畜産経営の安定のためには輸出がますます重要となると見えています。日本産和牛の品質の高さと美味しさは世界で認められており、今後も更なる需要の拡大が期待されるものと見えます。

年別輸出数量・金額の推移(2013年-2022年)(全国)

年	輸出数量 (トン)		輸出金額 (百万円)	
		前年比		前年比
2013年	415	146.3%	2,582	166.2%
2014年	633	152.7%	4,144	160.5%
2015年	873	137.9%	6,126	147.8%
2016年	1,005	115.1%	7,351	120.0%
2017年	1,335	132.8%	9,605	130.7%
2018年	1,907	142.9%	13,451	140.0%
2019年	2,065	108.3%	14,043	104.4%
2020年	2,337	113.2%	14,453	102.9%
2021年	3,485	149.1%	25,462	176.2%
2022年	3,734	107.1%	27,025	106.1%

年別輸出数量・金額の推移(2013年-2022年)(成田空港)

年	輸出数量 (トン)		輸出金額 (百万円)	
		前年比		前年比
2013年	17	173.0%	152	154.3%
2014年	33	202.1%	274	180.9%
2015年	51	151.3%	400	145.7%
2016年	59	116.4%	527	131.9%
2017年	139	237.2%	1,079	204.7%
2018年	259	185.7%	1,840	170.6%
2019年	232	89.5%	1,733	94.2%
2020年	426	183.7%	2,706	156.1%
2021年	752	176.4%	5,785	213.8%
2022年	912	121.3%	7,072	122.2%

年別輸出数量・金額の推移(2021年1～11月-2023年1～11月)(全国)

年	輸出数量 (トン)		輸出金額 (百万円)	
		前年比		前年比
2021年 1～11月	3,059	149.1%	22,370	178.2%
2022年 1～11月	3,341	109.2%	24,306	108.7%
2023年 1～11月	3,772	112.9%	26,621	109.5%

年別輸出数量・金額の推移(2021年1～11月-2023年1～11月)(成田空港)

年	輸出数量 (トン)		輸出金額 (百万円)	
		前年比		前年比
2021年 1～11月	649	178.9%	5,005	215.1%
2022年 1～11月	818	125.9%	6,372	127.3%
2023年 1～11月	921	112.6%	7,011	110.0%

取材協力:一般社団法人 日本畜産物輸出促進協会

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。
東京税関 調査部 調査統計課 TEL:050-5533-6995

財務省貿易統計 検索



東京税関

〒144-8616 東京都大田区羽田空港2-7-11 羽田税関支署貨物合同庁舎
<http://www.customs.go.jp/tokyo/>